

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 塔野 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

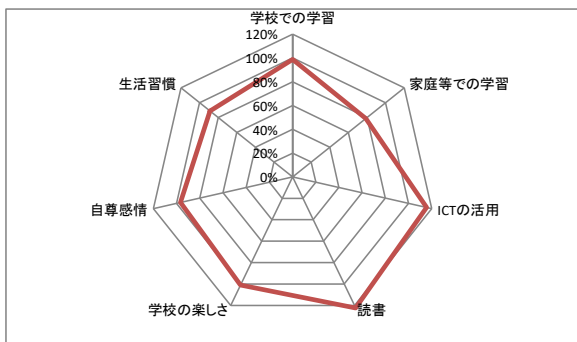
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均や県平均の数値からわずかに下回っている状況であり、ほぼ同様である。問題形式において、選択式では良好な正答率であった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・話し言葉と書き言葉の違いを理解する問題(選択式) ・漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く問題(選択式)	
	努力が必要な問題	・話し言葉と書き言葉の違いを理解する問題(選択式) ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題(短答式) ・文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける問題(記述式)	
算数	全体的な傾向や特徴など	全国平均や県平均の数値からわずかに下回っている状況であり、ほぼ同様である。知識・技能について、選択式や短答式で回答する問題においては、良好な正答率であった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・被乗数に空白のある整数の乗法の計算をする問題(短答式) ・図形を構成する要素に着目してひし形の意味や性質、構成の仕方について理解する問題(選択式)	
	努力が必要な問題	・被乗数に空白のある整数の乗法の計算をする問題(短答式) ・示された場面について、数量が変わっても割合は変わらないことを理解する問題(選択式) ・正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての格の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察する問題(記述式)	
理科	全体的な傾向や特徴など	全国平均や県平均の数値からわずかに下回っている状況であり、ほぼ同様である。問題形式において、選択式や短答式では良好な正答率であった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつ問題(選択式) ・観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつ問題(選択式)	
	努力が必要な問題	・自然の事物、現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述する問題(記述式) ・日光は直進することを理解している問題(選択式)	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・読書習慣(1時間以上読書をしている)・「規範意識(いじめ)」等については、肯定的な回答の割合が全国平均を上回っている。 ・「自尊感情」に関して、「自分でやると決めたことはやり遂げようとする」「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦する」等の項目で、肯定的な回答が全国平均を上回っている。 ・「家で自分で計画を立てて学習する」「学校の授業時間以外に1時間以上学習する」等について、全国平均を下回っている。家庭での学習習慣づくりが課題である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・国語科において、考えを書き、それを持ち寄って話し合い、考えを上げたり深めたりする授業づくりに取り組む。
- ・算数科において、基礎的・基本的内容の定着を図るとともに、考察し、それを記述する活動を重視する。
- ・理科において、水溶液や光等の「エネルギー」や「粒子」を柱とする内容の定着を図るとともに、自分の考えをもち、それを記述する活動を重視する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭学習や生活習慣づくりの大切さについて、学校だよりやほけんだより、学校HP・PTA活動等を通じて知らせる。
- ・保健学習や学級活動で自分の生活習慣を振り返り、自分なりのめあてを決めて実践させる等の改善に向けた取組を行う。